

現代的課題の探求活動の適否と可否は社会事象の多様性、多元性、可変性への注視度に —生活科・総合の原点が問う公教育（公立学校）再構築の道筋（2）—

馬居政幸（静岡大学（名）・前静岡県立大学非常勤講師）

1. 発表目的：総合の課題は「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」との小中高学習指導要領共通記述に集約される。とすれば “総合的学習・探求時間” の単元構成の適否と可否は、現代社会の三種の特性（多様性、多元性、可変性）への理解度と表現力で評価可能、との仮説の下、静岡県立大学（教職専門：総合的学習・探求教育法）受講生との協働による実証活動に挑んだ。その活動記録（LINE 履歴）と探求成果（チーム別発表 PPT）への生活科参与観察と社会問題調査で得た知見による分析結果の報告が本発表の目的である。

2. 発表概要：そのために、協働研究者の米津英郎の実践発表の土台を構成する生活科と総合に共通する理念と実践方法を解き起こし、学習から探求へと進むための “総合的学習・探求時間” に内在する論理とその開示となる実践方法と評価基準の特異性の提起を試みる。

その際に、全ての理と論と実の解の淵源を、学生+米津+馬居の LINE 履歴に記された生の言葉（口語表現・Word A4 判 46 文字×40 行⇒約 100 頁 80293 文字）と 3 チームに分かれて作成した活動記録（図 1 ⇒各チーム 100 枚以上の発表 PPT：テーマは現代的課題の典型）に求める。それは、米津と馬居の発表の内容と方法自体が、生活科・総合の原点開示の試みであると同時に、一人一台 PC と生成 AI を駆使する公立学校が担うべき課題提起への転移を志向する下記 4 種の “自己省察の軸（視座）” に基づく試行錯誤の歩みであることを意味する。

軸 1：「生活科」と「総合的学習・探求の時間」を貫く原則は米津発表で示したように、学習と活動の進行状況に応じた “教師・教科書・教室・時間割” の改編と改変の日常化。

軸 2：「現代的課題」と総称される社会事象を三種の座標軸（多様・多元・可変）の組合せで問う必要性を実証的に理解（検索・論議）する調査探求テーマのチーム別構築活動。

軸 3：総合的な学習（共有化）から探求（個人化）へと進行する学習目標の変化に応じる学習活動の内容と方法を再構築するチーム別活動の過程において、“情” と “意” と一体化した “知” の生成の契機（最先端分野で活躍する特別講師招聘）の準備⇒一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化（アクティブラーニング）を経験的に内在化する機会の構築。

軸 4：上記軸 3 種の過程と成果を PowerPoint に描き、チーム間でのプレゼンテーションと相互評価を繰り返し、チーム別調査探求成果の共有化⇒個別化⇒個人化（相互主観化）へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤。

3. 課題：小中高学習指導要領の「総合的な学習・探求の時間」の目標と内容の記述様式が、7 度の改訂によって構築した日本の公教育システムの中核を構成する教科書検定システムの外側に置かれていることを、“教師・教科書・教室・時間割” の転換装置設置過程の映像・資料等で実証的に明示し、現代的課題の恒常化を避けえない日常生活を構成する社会的システムの中心に現在の公立学校システムをおくことの機能的合理性への問いを提起する。

図 1：
チーム別
活動テ
ーマ一覧

★チームりんちゃん：食育と防災 スライド 165 枚：栄養生命科学科（女性 4 名 栄養教諭）
★チームまいまい：AI と人間の在り方 スライド 106 枚：食品生命科学科（女性 3 名 男性 1 名 高校理科）
★チーム coffee：男女ともに幸せに生きる～身近になった社会の問題や取り組みについて考える～
スライド 120 枚：環境生命科学科（女性 2 名 高校理科）